

各 位

平成18年4月26日
近畿日本ツーリスト株式会社
総務・広報部 担当：佐藤
(TEL：03 - 3257 - 1661)

旅行取扱状況の概観（平成18年3月分）

海外旅行の取扱額をみると、団体旅行では学生団体は取り扱い低調で前年を下回ったが、一般団体が取り扱い好調で大きく前年実績を上回ったため、団体計は11ヶ月ぶりの前年比プラス。企画旅行はホリデイの取り扱い増加により9ヶ月ぶりに前年実績を超え、個人旅行も個人需要を取り込み、ほぼ前年並み実績を確保した。この結果、海外旅行合計は前年比105.8%と昨年4月以来11ヶ月ぶりに前年実績を上回った。

国内旅行の取扱額をみると、団体旅行では一般団体が取り扱い堅調で前年実績を上回ったが、学生団体が取り扱い低調のため、団体計は前年実績に届かなかった。企画旅行は、メイトの伸び悩みにより前年実績に達しなかった。個人旅行では、航空券は取り扱い好調であったがJR券、宿泊券の取り扱い低調により、前年実績を大きく下回った。このため、国内旅行合計は前年比94.3%と前年実績を下回る結果に終わった。

外人旅行は、取り扱い低調に前年取り扱い好調の反動も加わり、前年比75.0%と大幅に前年実績を下回った。

3月の総取扱額は、国内団体旅行・国内企画旅行の低調、国内個人旅行の不振の影響が大きく、前年比98.2%と前年実績には届かなかった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント・コンベンションを中心に取り扱いを大きく伸ばし、11ヶ月ぶりの前年比プラスとなった。学生団体は前月よりも大きく取り扱いが増加したが、前年実績には達しなかった。方面別の取り扱いでは、香港、シンガポール、タイが倍増、アメリカ本土、オセアニアも前年実績を上回り好調であった。

(2) 企画旅行

取り扱い良化傾向にあったホリデイは、取扱額前年比で103.6%と6ヶ月ぶりの前年比プラスと好調。方面別取り扱いでは、中国を除いて各方面とも前年を上回ったが、なかでも台湾、シンガポール、タイ（前年地震の反動）の好調が目立った。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は大型団体の取り扱い件数が増加し、さらにイベント・コンベンション関係の取り扱いも好調で2ヶ月ぶりの前年比プラス。学生団体ではスポーツ大会等の取り扱いが増加したが、修学旅行の取り扱いが鈍化したため、前年実績に達するには至らなかった。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱人数では前年並み実績を確保したが取扱絶対額では前年比97.9%と前年実績に届かず低調。商品別の状況では、遠距離商品（北海道、九州、沖縄方面）は取り扱い堅調であったが、取り扱い絶対額の大きい東京地区商品が低調であった。

（以上）